

## 社会生活で学び得たこと

(株)ポッカコーポレーション 小立 和子

(生物生産学部 昭和61年3月卒業)

早いもので大学を卒業し、社会人となって4年めの夏を迎えています。私は今、食品メーカーの一出張所で一般事務の仕事をしています。大学時代酵素化学を専攻し、試験管片手に毎日実験していたことからすれば、全く畑違いの仕事をしているわけです。私の場合、会社を決めるにあたっての第一条件は地元で働けるということだったので、職種についてはあまり問題にしていませんでした。要するに大学で学んだことが生かせる専門職にはこだわっていなかったのです。



結果としては一般事務を選んで、今まで多くのことを学び、貴重な体験をすることができました。私の話し方、接し方一つで会社のイメージが相手によって決められてしまうのです。また、人づきあいの難しさも十分に教わりました。学生の頃は、気の合う仲間できあっていればいいけれど、社会に出ればそうゆう訳にはいきません。嫌いな人とも仲よくやっていかなければならないのです。これが結構大変で、実際、仕事の内容よりも人間関係で会社を辞める人は少なくありません。また女性なら社会に出れば一度は経験するこ

とになるでしょうが、理由もなくただ女性というだけで、はなから相手にされないのです。私など今まで何度「君では話にならない。男性に代われ。」と言われ、くやしい思いをしてきたことでしょう。昔は試験が来るたびに早く卒業して楽になりたいと思ったものですが、今こうして社会人の大変さを身にしみて感じ、昔の考えの甘さを反省しています。

私が就職活動をしていた当時は、地元では思った以上に大卒女子の採用にきびしいものがありました。採用する企業が少ない上に誰かの紹介がないとだめだとか、初めから仕事は3年だけという条件つきとかで、一体会社側は何を望んでいるのだろうと疑問に思ったものです。また、一方では自分が何をやりたかが決まらず、就職に対して消極的にならざるを得ない状況になっていました。今の会社を決めたのも確固たる理由があったわけではなく、正直言ってこの辺で手を打たなければという気持ちがあったことは否定できません。

しかし、今3年たってみて私の回りでは、望みどおりの会社に入った人が自分には合わなかったと辞めてしまったり、早々と結婚退職してしまったりで、何となく就職した私が仕事を続けているのです。もちろんこれからも続けていくつもりです。というのもまだやりたいことがたくさんあるので、そのためには資金が必要だし何よりも今の会社は居心地がいいみたいです。もちろん百パーセント満足しているわけではありませんが、これから伸びていこうとしている会社なので、大いに期待がもてます。(ただし、今回の消費税には大分打撃を受けましたが……。)

たまに会社関係の人から大学時代やっていたことを聞かれて説明すると、だいたいの人が私のことをもっていないと言います。最初の頃は私も道を誤ったかなと思ったこともありましたが、今はそうではありません。たとえば、学んだことが生かせる職業に就いたとしても、それが自分の社会生活において幸せか

どうかは疑問であることが3年働いてみて分かったからです。要は自分に与えられた仕事に満足できればそれでいいのではないのでしょうか。これから就職先を決める人に、こういった私の経験が少しでも参考になれば幸いです。ぜひともがんばって下さい。

